

第 5 次草津市総合計画の策定に向けて

【平成 20 年度 報告書】



平成 21 年 1 月

草津市総合計画策定市民会議

はじめに

草津市総合計画策定市民会議は、第5次草津市総合計画の策定に当たり、市民参加による自由闊達な議論の場において、総合計画の検討の基礎となる市民意見を広く求めるために設置されました。

平成20年8月に第1回会議を開催して以来、平成21年1月までに8回もの会議を通じて、市職員の方々と共に、地域の身近な課題や問題意識、まちづくりの取り組み提案などを出しあい、有意義な意見交換の場とすることができました。

当会議は、平成21年度に継続して開催を予定しておりますが、この度、平成20年度における取り組みが終了したことから「平成20年度報告書」としてとりまとめました。

本年度に本市民会議と並行して進められている総合計画基本構想の検討、また、次年度の基本計画の検討において、当会議の取り組み結果が十分に活用され、よりよい草津市のまちづくりに結びつく総合計画が策定されることを願っております。

草津市総合計画策定市民会議 代表 大田 信光

目次

はじめに

1. 意見交換の手順.....	1
2. 各会議の内容.....	2
3. 意見交換の概要.....	3

資料編

1. 意見交換の手順について

- 市民と行政の協働を重視して、市内で活動する各種団体代表や市民公募による委員で構成する当会議と、市の職員で構成するプロジェクトチームが同じ立場で意見交換を行った。
- 意見交換にあっては、以下の4部会によるグループワーク、また、要所における全体協議を行った。

第1部会：安心・安全、人権、環境	第2部会：健康・福祉、教育文化スポーツ
第3部会：都市基盤	第4部会：協働

- 部会ごとにテーブルに分かれて取り組んだグループワークにあっては、テーブルマネージャーによる進行支援のもとで意見の出しやすい環境づくりがなされて、リラックスした雰囲気の中で有意義な意見交換を行うことができた。

■ 採用したグループワークの基本的手順

手順	内容と留意点
<ul style="list-style-type: none"> グループに分かれてテーブルを囲む。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ間の距離は、他のグループの様子がわかることと、その声が邪魔にならないことを両立できる程度に（部屋の広さ、天井の高さ・音の響きにも配慮） グループ内のメンバーの「頭の距離」が重要で、メンバー数は8人程度に設定（±2人の変動に対応できるため）。長机3台程度を並べて「テーブル」とした。
取り組み説明 （チューニング）	<ul style="list-style-type: none"> 全体の進行役が、本日のプログラムについて説明。 自己紹介等を通じた参加者相互の波長合わせを実施。
意見交換	<ul style="list-style-type: none"> 他者の意見を否定しない、すべての意見を尊重することについて、各メンバーが共通認識を持っておくよう心がけることが必要。 各メンバーが、付せん1枚につき、ひとつの内容を記入し、互いにその内容を発表し合うかたちで進行。 「おしゃべり」で終わらないよう、なるべく付せんに意見を書き留める形式（模造紙の上にまとめられたものが成果物となる）
取りまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 出された意見をグループ化し、テーブルの意見交換の内容を整理。
発表	<ul style="list-style-type: none"> 各テーブルの発表者が、意見交換の成果を全体に説明。

2. 会議の内容について

- 会議の趣旨と草津市の概況について説明を受け、部会の編成を行った。
- インスタントカメラを手に、事前に提案した見学先を見てまわり、その感想を交えながら、草津市の現況や課題について様々な意見を出し合った。その意見交換を踏まえての語り合いを通じて、将来の草津のまちの姿をともに描いた。
- さらに、整理した課題をもとに、まちづくりの取り組み、また、その取り組み主体についてのアイデアを出し合った。
- 会議の成果を振り返り、総合計画への反映と次年度の取り組みについて確認した。

■ 各会議の内容

第1回	趣旨説明、草津市の概況把握、部会の編成	全体会
第2回	“わがまち草津”を語り、草津のまちを見ましょう！	部会
第3回	まちを歩いて、よいところや課題を確認しよう	
第4回	草津のまち全体をながめてみよう	
第5回	将来の草津のまちをイメージしよう	全体会
第6回	これからのまちづくりを考えてみよう①	部会
第7回	これからのまちづくりを考えてみよう②	
第8回	検討結果の取りまとめと構想への反映について	全体会



グループワークの様子



発表の様子

3. 意見交換の概要

- ・ 平成 20 年度の各部会における、「現況・課題」「将来像」「取り組み」に関するの
主要な意見交換の内容は、以下の通りである。
- ・ なお、文中の「 」は出された意見等の引用である。

(1) 現況・課題について

■ 第 1 部会 [安心・安全、人権、環境]

- 草津市の特徴として、「琵琶湖が身近である」「田園地域が残っている」など、草津市が自然的環境に恵まれていることについて意見が集中した。その一方で、開発が進んでいることで「豊かな自然が減りつつある」という状況も共通の認識であった。
- ごみ問題に対する市民の意識やモラルなどを始めとした様々な環境問題についても話し合われて「環境問題に取り組む必要がある」ことが重視されたほか、公園の整備・管理不足が挙げられ、「魅力のある公園整備が必要だ」という点で認識が一致した。
- また、総じて「市民の人権意識は高い」と確認された中、外国籍市民等の地域生活に関して、文化や習慣の違いなどによる「理解の難しさがある」ことが指摘された。
- このほか、草津市は災害が少ないまちであるが、それによって地域防災の重要性が小さくなるものではないこと、旧草津川跡地をはじめとした未利用地の活用をさらに図るべきこと、自転車盗難の増加などへの不安の高まりに対して、地域防犯を強化すべきことなどについての意見が出された。



■第2部会 [健康・福祉、教育文化スポーツ]

- 市民生活を取り巻く本市の現状として、生活に必要な衣・食・住を満たす条件が整っていることが確認された。その一方で、地域生活に身近な商店街が衰退していることが挙げられ、このことが、ひいては市民の生活の利便の問題を超えて、健康や福祉の問題にまで影響を広げるのではないかとされた。
- 史跡草津宿本陣などを例として、本市に「歴史的・文化的な魅力がある」ことが示される一方、「観光資源が少ない」「資源がネットワーク活用されていない」「全国ブランドとなる特産品がない」ことや、「修学旅行生の宿泊施設がない」「観光客対応の駐車スペースがない」など、人が行き交い滞在するまちとなっていないことが指摘された。
- 「都市景観の目指す方向が見えにくい」などの指摘がなされ、三ッ池における施設整備などについても、見学を踏まえた上で、規模と機能のバランスや、敷地の利用などについても意見が出された。
- このほか、「高齢者の活躍の場がない」ことや、公共交通に関して「バスの料金が高い」「本数が少ない」などの意見が、また、「大規模なスポーツ施設がない」「子どもが育つ環境づくりが必要だ」などといった意見が出された。



■第3部会 [都市基盤]

- 「人口増加による活気」や「駅前の開発が急に進んできている」現状に始まり、道路問題とその背景である車社会、河川や鉄軌道によって南北あるいは東西に分断された都市構造、今後の産業振興に至るまで、幅広い意見交換が行われた。
- 特に産業の振興に関しては、大型商業施設等の整備によって「生活に必要なハードが充実している」ことを認める一方で、商店街を含む中心市街地の今後のあり方が話題の中心となったことから、JR 草津駅・南草津駅周辺や商店街を実際に歩いて、その現状を確認した。
- 商店街の課題として、「店舗の連続性がない」「観光資源が点在しておりネットワークされていない」「消費者の交通手段が混在している」などにより、「生活者にも観光客にも魅力が小さい」現状にあるという分析がなされて、「衰退した商店街を活性化したい」という意見で一致した。
- このほか、自然環境や立地を生かした産業誘致の必要性、産学官の連携による新規産業育成の重要性、また、公共交通機関の不便や、慢性的な交通渋滞など、市内交通環境に関する課題が出された。



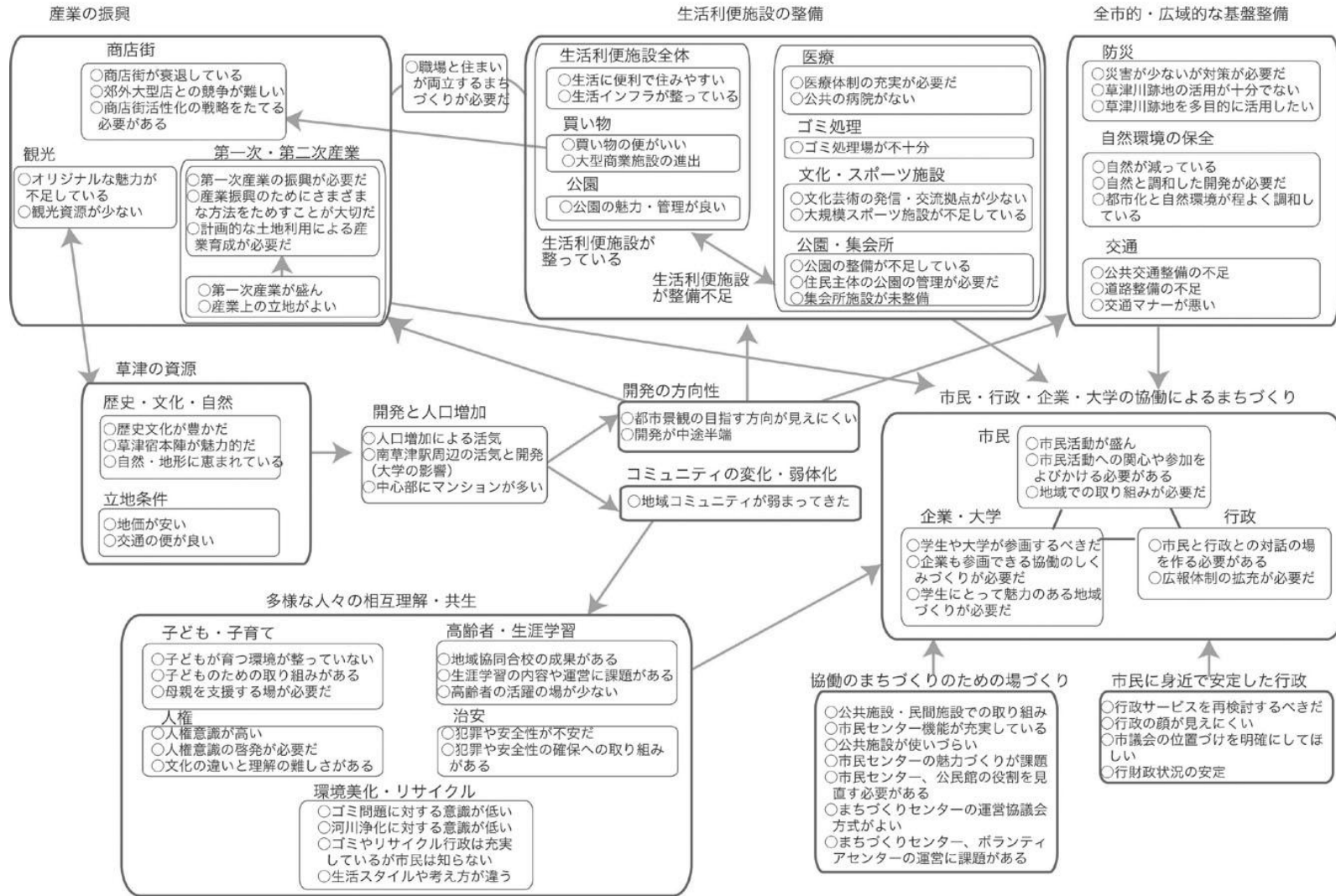
■第4部会 [協働]

- コミュニティの現状を皮切りに意見交換が行われ、本市では人口が増加しているが、その一方で、新住民同士や新旧住民の間などでの交流が少ない実態があり、地域コミュニティの機能が弱まってきていることが指摘された。こうした中で、新しい市民がそれぞれの地域コミュニティの一員となっていくためには、市民活動が重要となるということが確認された。
- 市民活動については、NPOのほか、団地などでの活発な地域活動、公民館における地域協働合校の取り組みなどの概況について確認した上で、市民センターやまちづくりセンターなど市民活動の拠点の充実が必要なことや、その他の公共施設についても市民が利用しやすくすべきことなどが挙げられた。
- 立命館大学に在籍する約1.8万人の学生などがまちの活気を生んでいることを踏まえて、大学や地域を巻き込んだ民間のネットワークの重要性、また、地域施設・広報などを市民目線で有効活用すべきである、新しいリーダーの育成や市民活動の広がりをつくっていくべきであるなどといった必要性が示された。
- 多様な人々が市民活動に参加することが重要であり、そのためにも「市民と行政の協働を進める必要がある」という意見に一致を見たところである。



【現況・課題についての意見のまとめ】

市民会議による草津のまちの現状についての意見結果



(2)将来像について

各部会において、部会の対象分野にとらわれることなく、まちの将来像を検討し、草津市の将来像に関わるキーワードとして、「共生」「ライフスタイル」「変化への柔軟な対応」などが挙げられた。

- 「10年後、高齢者の暮らしやすいまち」を基本として現在の車社会を見直し「自家用車に頼らないライフスタイル」を確立することや、「草津で働くライフスタイル」「通勤するライフスタイル」など、人口増加や学生の転入といった現状を踏まえて、多様な人々のライフスタイルを大切にできるまちのありようが示された。
- 「市民と行政による共生の仕組みづくり」が進むことによって、「さまざまな環境（自然、働く場、暮らし、マイノリティ）の共生」が可能となるようなまちの将来像が語られた。
- まちづくりのすべてを市民目線で考えることを通じ、学生ベンチャーの育成など大学が立地する草津の特性を活かして「時代の風の循環に対応できるまち」となる、また、市民の「生活」と向き合う「生活視点・オーダーメイドのまち」となるなどの将来像が示された。

【将来像】

目指す将来像	選択されたカード	WSでの意見
さまざまな環境（自然、働く場、暮らし、マイノリティ）の共生	豊かな自然環境が減りつつある	地球温暖化への対応
	環境問題に取り組む必要がある	
	産業の振興をはかる必要がある	
	駅前の開発が急に進んでいる	
	衰退した商店街を活性化したい	地域通貨などを検討できないか
	魅力のある公園の整備が必要だ	
	生活に必要なハードが不足している	
市民と行政による共生の仕組みづくり	文化の違いと理解の難しさがある	マイノリティグループも安心して暮らせる
	市民と行政との協働を進める必要がある	行政は財政面から市民はニーズから協働を考えるので食い違いがある
	市民活動は重要だ	行政は市民活動に関する情報を提供してほしい
	多様な人々が市民活動に参画するべきだ	ボランティアに頼りすぎた活動には限界があり、行政の支援が必要だ

目指す将来像	選択されたカード	WSでの意見
変化に対応できる市民目線のハード整備	生活に必要なハードが不足している	目的、方向性、将来像から施設整備運営を考えよう
	生活に必要なハードが充実している	ランニングコストを大事に！10年先を考えて！！
	生涯学習の制度や運用を充実する必要がある	ハコモノ凍結
	地域施設の有効活用が必要だ	
	健康福祉教育文化スポーツ施設が不足している	
	魅力のある公園の整備が必要だ	
時代の風の循環に対応できるまち	産業の振興を図る必要がある	草津の特性を活かす（例：学生ベンチャー）
	交通環境が整備不足である	新陳代謝をせざるを得ない「風のまち」
	駅前が開発が急に進んできている	ターニングポイントをつかめ
	人口増加による活気	「根無し草」だからこそ生き残れる
	まちの分断	今後は農の時代が来るかも
	衰退した商店街を活性化したい	草津は風のまち新陳代謝のまち。時代の変化に対応できるまち。
		時代の風を呼ぶまち。（課題の裾野も広がるけれど）
		ハードからソフトへ（10年先の草津はどんなまち？）
		骨を埋めるつもりで住み続けたい（働ける地域）
		帰ってこられるまちづくり（反対の事例：千里ニュータウン（いわゆる衛星都市））
協働による生活視点オーダーマイドのまちづくり	文化の違いと理解の難しさがある	「生活の質」重視のまちづくり（関西圏における草津の役割）
	多様な人々が市民活動に参加すべきだ	市民の「生活」と向き合う（観光でも産業でもない）
	市民活動は重要だ	市民活動に対する意識の二面性融合の必要性
	市民と行政の協働を進める必要がある	流動性の高い草津来る人を受け入れられるまちか？何を残すのか？が問われる
自家用車に頼らないライフスタイル	まちの分断	高齢者の移動手段
	交通環境が整備不足である	新交通システム
		補助幹線の整備 東西方向の道路整備
草津で働くライフスタイル・通勤するライフスタイル	職場と住まいが両立するまちづくり	
	産業の振興を図る必要がある 子どもが育つ環境づくりが必要だ	年齢構成をバランスよく
10年後、高齢者の暮らしやすいまち	衰退した商店街を活性化したい	商店街での車の扱い方を検討しよう
		道路にも適正な幅が必要だ
		魅力のある商品づくり 海外の超大手スーパーを誘致してみる

(3) 取り組みについて

■ 第1部会 [安心・安全、人権、環境]

- 「現在残っている自然環境の保全」のため、関係分野の専門家との協働を通じて地域資源を把握するため「自然環境保全計画の策定に向けた調査研究」が提案された。
- 「市民一人ひとりができることを実践した環境保全活動」のため「環境美化啓発活動」について話し合わせ、特に子ども向けの教育プログラムが求められた。
- 小規模な公園について、住民参加による整備や住民主体の運営など「住民参加の公園づくり」について提案がされた。
- 多文化共生社会づくりのため、「イベントにとどまらない、日常生活での理解」を進めるため、「外国人の子どもの教育支援」「公共施設の表記の多言語化」などが話し合われたほか、「外国人のための生活相談窓口の拡充」「広域での外国人への生活情報の提供」などの提案がされた。
- 「大震災を想定した地域防災の取り組み」や「市民の防災意識づくり」について意見交換がなされ、ボランティア活動との連携や広域連携の重要性、市民の自主防災組織の強化などについて提案された。

■ 第2部会 [健康・福祉、教育文化スポーツ]

- 子どもを始め、様々な世代が安心して過ごせるようなコミュニティ・スポットをつくっていくため、公園の整備や、既存の施設（学校のグラウンドや旧草津川跡地）の活用が提案された。
- 幅広い世代による子どもの育成支援ネットワークの形成が必要であることから、高齢期にある人の持つノウハウを活用し、「高齢者の社会参加の促進」ともなるような取り組みが必要であることが示された。
- 高齢期を迎えた人や障害のある人が出かけやすいまちとしていくため、公共交通機関など様々な機関が連携した外出支援の取り組みについての提案がされた。
- このほか、草津の地域資源をブランド化し、市民がその普及に協力していくこと、文化ホールの活用などが話し合われた。

■第3部会 [都市基盤]

- いずれの課題への取り組みにおいても、市全体としての戦略を立て、それをエリアごとに民間事業者や住民が主体的に検討することが重要であり、情報の拠点である行政が、需給のマッチングやルールづくりなどで、まちの動きを支えていく役割を担うべきことが話し合われた。
- 中心市街地（商店街）の活性化について意見が集中し、駐車場やアクセスの整備などのハード的な対策に先んじて、商店街の顧客層を設定した「商店街のコンセプトづくり」や「商店街への動線計画」などによる活性化戦略を打ち立てることが必要であることが提案された。
- 中心市街地（商店街）の活性化の取り組みは、民間がリードする形のまちづくり組織づくりが担うべきことが示され、土地利用の方針・規制や道路などのハード整備など行政がバックアップすべきことが提案された。
- 空き店舗におけるチャレンジ・ショップや屋台村のようなイベントなど、実験的な手法で市民の反応を探っていくことが提案された。
- このほか、地産地消の促進において生産現場とレストランなどとの連携がポイントである、直売所などの立地については、より生産者に近く（場所）より消費者に近い（意識）場所で考えるべきであること、研究部門やハイテク企業の誘致が有望である、「歩いて暮らせるまちづくり」に向けて行政主導でハード面等を整備する、などといった提案が出された。

■第4部会 [協働]

- 新しい市民層との共生という視点が重要で、市民の新しいニーズ・課題の多様化に対応できるよう、地域別のグループ育成からテーマ型（課題別）のコミュニティ・市民活動の育成へと施策転換を図っていくべきことが話し合われた。
- 具体的な市民活動のサポートのため、まちづくりセンターやボランティアセンター等の中間支援機関の整備と機能強化を図る必要性が指摘された。中間支援機関に対しては、市民活動の「仕掛け役」の役割が期待され、地域間の連携・協働、様々な主体のネットワーク、広報などの取り組みにより、市民と行政を取り結ぶことが重要であるとされたところである。
- このほか、市民活動の場づくりに向けて、公共施設運営に民間活力を導入するなど、地域のアイデアや意見を反映する条件整備が必要といった意見が出された。

(4)次期総合計画への反映について

当会議では、草津市の現況、課題、将来像、さらに課題を踏まえた取り組みについて、様々な意見交換を行ってきた。これら意見交換の成果が、総合計画の内容に反映され基本構想の適切な項目において十分参酌されるとともに、次年度検討予定の基本計画の素案作成に向けた基礎とされるよう願います。

資料編

■委員名簿と部会構成

部会名	策定市民会議委員	市プロジェクトチーム	
	氏名	所属	氏名
1. 安心・安全、 人権、環境	宇野 彰一	危機管理室	古川 郁子
	恩地 美和	人権政策課	山本 陽一
	◎ 高岡 實	環境課	山際 喜一郎
	西川 由佳莉	クリーン事業課	木村 博
	畑 源	ロクハ浄水場	平尾 聡
2. 健康・福祉、 教育文化ス ポーツ	岡本 幸助	社会福祉推進課	西 典子
	澤 孝子	保育課	河合 裕明
	白井 けい子	生涯学習スポーツ課	中立 輝
	谷 恵子	文化財保護課	岩間 一水
	◎ 田村 忠義	学務課	岡村 美穂
3. 都市基盤	○ 井上 美治	保険年金課	吉田 万里
	大久保 啓子	公園緑地課	西村 新朗
	◎ 河村 完	道路課	福井 教之
	中島 紀昭	建築住宅課	北相模 政和
	南 義彦	建築住宅課	山岡 正明
4. 協働	池田 奈美	総務課	千代 治之
	大田 信光	税務課	三浦 絵美
	◎ 小河 英明	予算調整課	安藤 智至
	銭本 紀洋	まちづくり課	村木 孝信
	○ 廣畑 諭	議会事務局	錦織 明子

※◎部会長 ○副部会長

■会議開催の経緯

回	開催日	概要
第1回	平成20年 8月24日 (日)	<ul style="list-style-type: none"> ○市長あいさつ ○委員および職員自己紹介 ○第5次草津市総合計画策定方針について ○草津市総合計画策定市民会議の進め方等について ○代表、副代表の選出 ○部会の編成について ○草津市の現況について
第2回	9月7日 (日)	<p>「わがまち草津」を語り、草津のまちを見ましょう！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループワークの説明とアイスブレイク ○自己紹介 ○“わがまち草津”について語りましょう ○草津のまちを見に行く準備をしましょう ○発表
第3回	9月28日 (日)	<p>まちを歩いて、よいところや課題を確認しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前回の作業の振り返りと第3回市民会議のプログラムの説明 ○自己紹介 ○草津のまち歩き ○まち歩きのまとめと各部会の部門別の意見の補充 ○発表
第4回	10月5日 (日)	<p>草津全体の課題をながめてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前回までの作業の振り返りとグループワークの説明 ○“情報”を仕入れてみよう ○各部会の意見のまとめ ○発表 ○草津のまちについて、統合した意見を確認する
第5回	10月27日 (月)	<p>将来の草津のまちをイメージしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前回までの作業の振り返りとグループワークの説明 ○まちの課題の確認と将来像の検討 ○各グループの意見のまとめ ○発表 ○まとめ
第6回	11月24日 (月)	<p>これからのまちづくりを考えてみよう①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前回までの作業の振り返りとグループワークの説明 ○草津のまちづくりの取り組みを検討する・第1弾 ○各グループの意見のまとめ ○発表 ○まとめ
第7回	12月8日 (月)	<p>これからのまちづくりを考えてみよう②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前回までの作業の振り返りとグループワークの説明 ○草津のまちづくりの取り組みを検討する・第1弾 ○各部会の意見のまとめ ○発表 ○まとめ
第8回	平成21年 1月28日 (水)	<p>検討結果の取りまとめと構想への反映について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○報告書案の確認

■グループワークのまとめ

【現況】

○第1部会

現況に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）
人権意識が高い		<ul style="list-style-type: none"> ○ 人権や環境に対して意識が高い人が多い ○ 人権が守られている
都市化と自然環境が程よく調和している		<ul style="list-style-type: none"> ○ 農産地と市街地が近接している ○ 緑と市街地がうまく分かれている ○ 田園などと都市部の両方がほどよく存在している ○ 発展しすぎず、田舎すぎず住みやすい（2） ○ 市街地と農村部が共存している
自然・地形に恵まれている		<ul style="list-style-type: none"> ○ 環境に恵まれている（4） ○ 市街地と農村部が共存している ○ 気候が良い ○ 琵琶湖が近い ○ 琵琶湖に接する長さが多い ○ 琵琶湖岸に位置し景観が良い ○ 緑、田園、湖に接し、広範囲な都市である ○ 旧草津川の桜はよい
公園の魅力・管理が良い		<ul style="list-style-type: none"> ○ 南草津団地の公園の管理では、毎週1回草むしりをしている ○ ロクハ公園にはカブトムシの家がある ○ ロクハ公園では、土の上を歩いたり緑をみたりしてほっとする。 ○ ロクハ公園は、遊具に頼らず、自然を活かした公園で心がやすらぐ ○ ロクハ公園は市民に愛されている ○ ロクハ公園は、意外と利用者が多い ○ ロクハ公園は、親子で遊べるのがよい ○ ロクハ公園プールの人気が高い ○ 博物館、水生植物公園以外にレジャーを楽しむ人が意外と多い
犯罪や安全性の確保への取り組みがある		<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの安心安全活動で、学生ボランティアと町内会が連携している ○ 電球の取り替えを町内会で取り組むところもある ○ 防犯活動で警察と協力して活動しているところがある ○ 防犯の学生ボランティアが南草津駅周辺のゴミ拾いをしている

○第2部会

現況に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）
子どものための取り組みがある		○ 登下校の見守りの取り組みが進んでいる (3)
地域協働合校の成果がある		○ 地域協働合校が11年目に入り、特色が出ている
歴史的・文化的な魅力がある	歴史文化が豊かだ	○ 歴史文化の街 ○ 古い建物が結構ある。
	草津宿本陣が魅力的だ	○ 東海道と中山道の交差する宿場町 ○ 草津宿本陣が魅力的

○第3部会

現況に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容 (括弧内は重複意見数)
人口増加による活気		<ul style="list-style-type: none"> ○ 人口増加 (2) ○ 人口増加したため (県内他市より) 活気がある (5) ○ 人口が多すぎる ○ 人が多すぎない ○ 人口が程よい状況にある ○ 若さや先行きの可能性をもった町である
JR南草津駅前の開発が進んできている	地価が安い	○ 大阪や京都と比べると地価が安く、住宅を購入しやすい
	JR南草津駅周辺の活気と開発(大学の影響)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 南草津駅周辺が開発されてきた ○ 店舗が駅前に集中して、目的が明確に達成できる便利なまちだと思う ○ 南草津駅前は活気がある。 ○ 南草津は若い町であり活気がある ○ 南部地区に活力を感じる ○ 大学があることで、開発が進んでいる (2) ○ 若者が多く街に活気がある ○ 立命館大学があり若者が多いので活気がある ○ 学生が多い (BKC人口は17,500人、市内129のマンションに8,000人の学生が住んでいる。しかし住民票を草津にもっているのはそのうち3割) (バス・自転車の軌轢も)
生活に必要なハードが充実している	交通の便が良い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 草津は交通の要所だ (2) ○ 大阪、京都への通勤圏 (3) (そのため人口増) ○ 京阪神への (アクセスに) 立地がよい ○ 京都大阪に出かけやすい ○ 通勤しやすい ○ 交通の便が良い (5) ○ 交通がある程度便利だ ○ インフラ整備が進んでいる ○ JR、道路などのアクセスが良い、JR、高速道などの幹線がわりと便利 ○ 道路が整備されている ○ 車で移動しやすい ○ 滋賀県の中での位置が中心に近い ○ 京阪神への利便性がよい (新快速の登場で際立った。バブル期には終の住処として草津を選ぶ人も)
	買い物の便がいい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 買い物の便がいい ○ 暮らしに必要な日常的な買い物ができるいい街になっている。 ○ スーパー、店が多く、近いところで買える (物価も安い) (3)

○第3部会（つづき）

現況に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容（括弧内は重複意見数）
生活に必要なハードが充実している（続き）	大型商業施設の進出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大型商業施設の進出により生活が便利 ○ 大規模店舗の充実
	生活に便利で住みやすい	<ul style="list-style-type: none"> ○ まちとして適当なサイズを有している ○ 生活する環境（衣・食・住）が整っている ○ 生活に便利で住みやすい（3） ○ 清潔、ゴミが少ない
	生活インフラが整っている	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上下水道設備が整っていて良い ○ 溝ぶたの段差が解消できている
産業が盛ん	第一次産業が盛ん	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業が盛ん ○ 山田の草津メロンは、守山より安くて、おいしいとも言われている。 ○ ホンモロコやアオバナに着目して振興策をやっている。いずれも減反対策としてやってきた。
	産業上の立地がよい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 草津のいいところをあげて、それを生かすことが大切。例えば、交通の要衝であることなど ○ 大手メーカー工場が多い ○ 新名神は、草津にとってプラスになった ○ 湖南エリアは、まだ成長する可能性のある地域 ○ 交通の要衝であることが利点。この強みがどんな産業で生かせるか ○ 例えば、10t運んで、100万ではなく、億稼げるような、付加価値の高さが必要。先端産業などか。 ○ 交通の要衝を生かせるとよいが、一方で、環境面からは、トラック輸送は見直しの方向でもある。 ○ 企業進出には、労働力確保も指標になっている。その意味で、湖北や湖西より、湖南は有利。

○第4部会

現況に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容 (括弧内は重複意見数)
市民活動が盛ん		<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民活動をやっているとおもしろい人との出会いがある ○ 市民活動が盛ん (2) ○ 地域活動が低迷している中で、テーマ型のボランティアが主流になってきた ○ 小学校・中学校に地域協働合校がある (大阪などにはない) ○ 70歳以上が引っ張ってきた南草津団地の活動 ○ 南草津団地は町内会全体が高齢化する中で、周辺町内会との交流 (子育てサロン) の場がある
公共施設・民間施設での取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ○ 老上公民館では「地域協働合校」の取り組みが、幼稚園・小学校・中学校・公民館が近くにあるので連携しやすい ○ 老上公民館は「あいさつ通り」「わんぱくプラザ」など活発 ○ 老上公民館の学区内は様々な自治会があるので、同質に議論するのは難しい ○ 大学のグラウンドで少年野球チームの活動 (大学施設の活用)
市民センター機能が充実している		<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民センター機能が充実している ○ 市民センターの役割が大きい ○ 老上公民館は、現在は市民センターとして届出發行
まちづくりセンターの運営協議会方式がよい		<ul style="list-style-type: none"> ○ 運営協議会で市民と行政・財団が対等に話し合う ○ まちづくりセンター 利用者・所有者・管理者との協働による運営協議会
行政・議会の位置づけ		<ul style="list-style-type: none"> ○ 市議会は議会としての機能を果たしているのか? ○ 市の職員の数は減っているが、なぜ市議会議員の数は減らせないのか?
行財政状況の安定		<ul style="list-style-type: none"> ○ 夕張のように破綻していない

【課題・取り組み】

※ 課題に対する取り組み提案にあつては、課題項目の増補や再構成が必然的に生じたため、施策提案に合わせた課題の再整理を行っている。

○第1部会

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案											
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容	
人権意識の啓発が必要だ			人権意識の啓発が必要だ		人権意識の啓発	モニュメントによる人権意識の啓発			○						平和のモニュメントで啓発してはどうか	
文化の違いと理解の難しさがある	外国からの転入者にゴミの分別の説明ができない		文化の違いと理解の難しさがある	イベントにとどまらない日常での理解の推進	外国人の子どもの教育支援の推進			○	○				小学校		ボランティアが教育委員会と連携して、小学校に出向き外国からの子どもを支援する	
	アジアから来た人はとけこんでいて気づきにくい													市役所の標記くらいは多言語にする。どの言語をとりあげるのか検討は必要だ		
	転入者だと気づかないことで理解できないこともあるかも知れない															外国人相談窓口の頻度を増す。転入者のための講習会を開催する
	夜に騒ぐなど、国によって文化の違いがある											○	○			イベントにとどまらず、行政と外国からの転入者をつなぐルートをつくるため、湖南などの県レベルでの取り組みを検討する

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
豊かな自然環境が減りつつある	自然が減っている	割と自然が残っているが、ドンドン減っている
		緑が少ない(2)
	自然と調和した開発が必要だ	田園地域は10年後に住みやすいかを検討する必要がある
環境問題に取り組む必要がある	ゴミ問題に対する意識が低い	都市化と自然環境が程よく調和しているので、これ以上開発しないでほしい
		現在は処分できない分は大阪湾に埋め立てしているが、市民は知らない

課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
豊かな自然環境が減りつつある	自然が減っている 自然と調和した開発が必要だ	現在残っている自然環境の保全	自然環境保全計画の策定に向けた調査研究									開発地の中で保全可能なもの、価値あるもの(樹木など)のリストをつくり、市街化調整区域での大開発の抑制には具体的にどんな施策が必要か検討する
						○		○				開発用地の3%を公園用地にまわす、ため池などの自然保護にまわせないか
環境問題に取り組む必要がある	ゴミ問題、河川浄化に対する意識が低い ゴミやリサイクル行政は充実しているが市民は知らない 生活スタイルや考え方が違う	市民ひとりひとりができることを実践した環境保全活動の推進	環境美化啓発活動の推進	○	○	○						一斉清掃の取り組みをすすめる

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
環境問題に取り組む必要がある(続き)	ゴミ問題に対する意識が低い (続き)	分別するとプラスチックのゴミが多いが、再生は難しい
		ゴミの投棄が多くなっており、モラルが低下している
		自然も放置されるとゴミのたまり場になるので管理が必要だ
		粗大ゴミが多くなってきた。テレビや自転車など。デポジット制は検討できないのか
		草津川の草を堆肥にしてリサイクルしたいが、廃棄物として処分しなければいけないのかわかりづらい
	河川浄化に対する意識が低い	河川から琵琶湖への水のサイクルを考える人が少ない
		農繁期になると河川に油が浮く

課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
環境問題に取り組む必要がある	ゴミ問題、河川浄化に対する意識が低い ゴミやリサイクル行政は充実しているが市民は知らない 生活スタイルや考え方が違う	市民ひとりひとりができることを実践した環境保全活動の推進	環境美化啓発活動の推進									子どもへの啓発活動が必要だ。親への波及効果もある 行政としては、清掃活動に参加してきたがゴミは減ってきたので効果はある 草津の分別の説明書はわかりやすいので徹底してほしい 生活スタイルやリサイクルに対する啓発活動が必要だ

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
環境問題に取り組む必要がある(続き)	ゴミやリサイクルの取り組みは、行政は充実しているが市民は知らない	ゴミ拾いのボランティアで、行政からは大型ゴミなどは拾わないでほしいと伝えられたが、実際には行政は場所を教えてほしいと考えており、相互に正確な情報が伝わらない
	生活スタイルや考え方が違う	河川の泥はセメントなどにしてリサイクルしているが市民は知らない リサイクルのシステムが充実すれば税金も有用に使えるのに リサイクルに対する考え方も市民によって違う 生活スタイルに対する考え方が新住民、旧住民で異なる 新住民には、煙や蛙の鳴き声も公害になりうる 新住民は前に住んでいたところ(都会)と同じ行政サービスを期待するが対応できない

課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
環境問題に取り組む必要がある(続き)	生活スタイルや考え方が違う(続き)	行政としては、旧来の生活スタイルについて指導するのは難しい
魅力のある公園の整備が必要だ	公園の整備が不足している	中心地に公園、芝生の広場がない、少ない(2)
		人が集うような、コミュニティの中心となるような場所に公園がない
		公園の管理が悪い
		公園が放置されている
		公園の遊具が多すぎる
		ロクハ公園はイベントが少ない
		ロクハ公園は公園へのアクセスがすくない

課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
魅力のある公園の整備が必要だ	公園の整備が不足している	住民参加の公園づくり	住民参加による近隣公園の整備促進	○		○						住民参加で公園づくりをすすめ、古い遊具を取り替える費用を自然の保護にまわす
			行政によるオープンスペースの整備推進									子どもが一人で行けるような駄菓子屋が少ないので、老人会で駄菓子屋を担ってもらい、たまり場的な機能をもたせられないか 大規模な公園は、公園づくりの段階で自然を残すような工夫をする ロクハ公園に食事ができるログハウス等があればよい

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
魅力のある公園の整備が必要だ(続き)	公園の整備が不足している(続き)	ロクハ公園はアクセスが不便である
		ロクハ公園は子どもだけでは遊べない ロクハ公園は交通の便が悪く利用者が少ない 安全な子供の遊び場が少ない
	住民主体の公園の管理が必要だ	
災害が少ないが対策が必要だ		災害は少ないが対策は必要だ

課題の再整理		施策の提案											
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容	
魅力のある公園の整備が必要だ(続き)	公園の整備が不足している(続き)												
		住民主体の公園管理が必要だ	住民参加の公園づくり	住民参加による公園の維持管理の推進	○		○						住民参加の公園づくりで維持管理も住民主体ですすめる。特に行政がやりきれないところ、リサイクル等、住民のアイデアを行政が後押しする。
災害が少ないが、対策が必要だ		大震災等を想定した取り組み	他都市との相互応援体制の充実			○							県内での防災協定を検討する(備蓄など)
			地域防災拠点の見直し、整備					○					防災拠点については、小学校でも収容できるかわからないところもあるので学区ごとの防災対策を見直す必要が有る
			防災総合訓練の実施				○				消防		地域協働合校の防災訓練でもっと具体的なプログラムを提供

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
災害が少ないが対策が必要だ(続き)		
草津川跡地の有効活用を検討する必要がある	草津川跡地の活用が十分でない	草津川跡地が充分活用できていない
		旧草津川の取り扱いが不明だが、災害時に使える施設にならないか
		人通りが少ない
		荒れた印象がある
		空き地を利用できていない
		街灯が少ない
		利用が決まっていなくて管理が大変だ

課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
			自主防災組織の充実	○								防災のヘルメットなどを自治会に配布する制度があるが、住民主体の防災組織づくりをすすめる／炊き出し等 女性も男性も参加する防災訓練
草津川跡地の有効活用を検討する必要がある	草津川跡地の活用が十分でない 草津川跡地を多目的に活用したい	草津川跡地の総合的利用の推進	防災、公園、交通等の多機能的な草津川跡地の利用計画の策定									桜などの憩いは残したい 草津川も市民主体で使っていきたい 草津川の利用をもっとすべき。 ゾーン別の利用よりも草津市全体としての利用法を模索すべきだ 防災拠点+道をセットで整備できないか
				○		○				○		

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
草津川跡地の有効活用を検討する必要がある(続き)	草津川跡地を多目的に活用したい	
犯罪や安全性が不安だ	物騒なことが多い	
	犯罪が多い	
	重大犯罪が少ない	
	軽微な犯罪は多い	
	自転車の盗難などの犯罪が増えつつある	
	治安が不安	
	子供だけで安心して遊べる場所がない	
	大型商業施設に子どもが遊びにいった場合、周囲の大人の目が行き届かないためのトラブルが心配	
	大学生の路上駐車への対応で住民の理解が難しいところもある	

課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
犯罪や安全性が不安だ		市民の防災意識づくり	住民、ボランティア、行政、警察の防災施策の連携強化									
				○	○	○					警察	ボランティア活動に対する地域の理解がないと、活動自体があやまれる。ボランティアが統計を取って防犯マップを作り、行政や警察に情報提供、学区のイベントで住民に情報提供 子供の見守り活動のための商店とか高齢者が集う場所がある いいと思う

○第2部会

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案											
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容	
子どもが育つ環境づくりが必要だ	子どもが育つ環境が整っていない	まちに子どもがいな	子どもが育つ環境づくりが必要だ	子どもが育つ環境が整っていない	子供の遊び場の拡充	既存の地域設備を活用した身近で安全な遊び場の整備	○	○								地域住民(自治会やクラブなど)が所有するグランドゴルフ場を子どもの遊び場として開放する
		昔の駄菓子屋のような、子供の友達づくりができる場が少ない														土のにおいが感じられるような、芝生のある所は人が集まるので、学校のグラウンドを芝生にして開放する。芝は日本サッカー協会が無料で配布。芝の管理は地域の高齢者が担う。市民が芝生基金をつくる。志ある人の土地に自動販売機を置かせてもらい、自動販売機の売上げを、芝生の維持管理に活用する。
		児童館、児童センターがない(無料で自由に遊びに行けるところ)(2)					草津駅前および旧草津川跡地の公園整備			○						

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
子どもが育つ環境づくりが必要だ(続き)	子どもが育つ環境が整っていない(続き)	私立幼稚園が草津駅周辺に集まっているため、その他の地域の人に通いにくい
		幼稚園の入園に制限がある 公立の幼稚園は3年保育をしていないため、私立に人気が集まる
母親を支援する場が必要だ		子育て中の人が集まる場所が少ない(3)
		特に0歳児のお母さんは孤独に陥りやすく、支援が必要

課題の再整理		施策の提案											
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容	
子どもが育つ環境づくりが必要だ(続き)	子どもが育つ環境が整っていない(続き)	子供の遊び場の拡充(続き)											
			母親を支援する場が必要だ	子育て中の親への支援の推進	幅広い世代による子育て支援ネットワークの整備推進	○	○	○					老人会の集まりに子育て世代を誘い、世代間交流を楽しむ。その際、参加しやすい工夫をする。
				子育てを支援する高齢者ボランティアの育成と相談ダイヤルの設置			○	○					高齢者が子育て相談ダイヤルを担う
			公共施設における子育て支援機能の充実	○	○	○				公共施設		市が既存施設のフリースペースなどを開放して絵本やおもちゃを配置し、市民が運営する。(まちづくりセンターのふらっとサロン、各市民センター、なごみの郷など)	

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
生涯学習の制 度や運用を充 実する必要が ある	生涯学習の 内容や運営 に課題があ る	社会教育関連団体が 多様化しているが、世 代交代ができておら ず、同じ人が担うケー スが多い
		社会福祉団体も多様 化し横のつながりが ない
		生涯学習関連の情報 が分散し、検索しづら い
文化的な魅力 が不足してい る	都市景観の 目指す方向 が見えにく い	町の景観が、あまり 良くない
		都市景観の目指す方 向が見えにくい
		四季を感じるものが ない。
		花がない。

課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ホラン ティ	行政	民間	専門 家	大学	その 他	備考	付箋内容
生涯学習の制 度や運用を充 実する必要が ある	生涯学習の内 容や運営に課 題がある	生涯学習関連情 報の集積、発信	生涯学習情報検索シ ステムの整備									学生や退職シニア、コミ ュニティFMなどが既存 のサイトなどをつなぐ情 報媒体を作成する。広 告料で運営し、掲示板 機能などを用いて、利 用者側の声を共有でき るようにする。(携帯電 話での利用者が多いの で、緊急時の連絡用に 活用できる)
文化的な魅力 が不足してい る	都市景観の目 指す方向が見 えにくい	調和のとれた都 市景観の創出	未利用地の総合的な 計画策定									三ツ池の残りの2つ の池は憩いの場とし て活用できないか？ (2) 三ツ池はせっかくだ から全土地を市の建 築物にすればいいの に 三ツ池は中心部に近 く、便利な場所にあり、 広いので計画的な利用 が必要だ 三ツ池は埋立地と住宅 が隣接していることに 留意した計画が必要だ

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
文化的な魅力が不足している(続き)	都市景観の目指す方向が見えにくい(続き)	烏丸半島の空き地利用は？(3)
		風車はシンボルになっているか？
		烏丸半島の施設計画は集客が難しいのでは？
		烏丸半島の施設計画は使用用途・目的を明確にしないと不安、もったいない
		烏丸半島の施設計画は中途半端にならない利用計画をたててほしい
		三ツ池はサッカー場の芝が天然の場合、年に50回程度しか使えない
		三ツ池は施設の内容が盛り込みすぎではないか
三ツ池は企業売却部分の内容が共存できるものか		
文化芸術の発信・交流拠点が少ない	映画館がない	

課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
文化的な魅力が不足している(続き)	都市景観の目指す方向が見えにくい(続き)	調和のとれた都市景観の創出(続き)										
			文化芸術の発信・交流拠点が少ない	草津オリジナルの文化芸術の発信	文化ホールを活用した市民文化の振興	○	○	○				公共施設

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
文化的な魅力が不足している(続き)	文化芸術の発信・交流拠点が無い(続き)	大きな市民ホールがない
		文化芸術の発信・交流拠点が少ない
		市の文化施設がない(ホール)
		「歴史・文化行政が近隣市町より弱い」と言われる
		文化施設が少ない
オリジナルな魅力が不足している		歩いて魅力のある街にする必要がある
		商店街、文化ゾーンも含めて、何の興味もない街になっている。

課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
文化的な魅力が不足している(続き)	文化芸術の発信・交流拠点が無い(続き)	文化財の蓄積・発信	文化財に身近に触れることのできる機会の創出									文化財保護課が文化財を身近なところで見られるように、学校の文化祭や、地下道の壁、草津川のトンネルなどを見せていく
	オリジナルな魅力が不足している 観光資源が少ない	観光施設の開発	烏丸地区における観光関連施設の整備および観光関連機関の連携									琵琶湖博物館・水生植物公園に隣接して、空き地になっている場所に動物園をつくる
												市が烏丸半島の空き地にサッカースタジアムを設置し、宿泊施設とサッカー場が共同で市内の宿泊施設から無料バスを出す

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
文化的な魅力が不足している(続き)	オリジナルな魅力が不足している(続き)	人を呼び込む魅力がない
		買い物に京都、大阪に行ってしまう
		郷土料理がない？
		全国的に有名なお土産がない
		町のターゲットがどんな人なのか見えない
草津といえば・・・というシンボル、核、ブランドがない(5)		

課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
文化的な魅力が不足している(続き)	オリジナルな魅力が不足している 観光資源が少ない(続き)	観光施設の開発(続き)	烏丸地区における観光関連施設の整備および観光関連機関の連携(続き)				○	○				市が烏丸半島の空き地にサッカースタジアムを設置し、サッカー場と市が共同で雄琴温泉の宿泊客を、道路の混雑防止のために対岸から船で輸送する
		修学旅行の勧誘	琵琶湖の体験学習プログラムの開発と提供			○	○	○	○			琵琶湖バス釣り体験など、琵琶湖を核とした体験プログラムを作成する
		草津の特産物・イベントの開発	特産品の普及促進					○				特産品の開発者が営業を図り、草津出身の有名人にテレビなどで宣伝してもらう
				○								地元の人が名物・お土産を一度は食べてみて、積極的に活用する。そのため、喫茶店のメニューで扱うなどして、身近なところで食べられるようにする
			”水の草津”の関連観光資源の開発と普及促進				○	○				”お湯の草津(群馬県)”に対抗して、”水の草津”でブランド化する
							○	○				守山市に続いて、ホテルを核としたブランド化を進める

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
文化的な魅力が不足している(続き)	オリジナルな魅力が不足している(続き)	地味なイメージ(大阪から見ると大津以北はよくわからない)
		誇れるものがない
		群馬の草津と間違われる(2)
		花火大会がない
		おいしいそば屋がない
	観光資源が少ない	観光資源が少ない活かせていない(2)
		歴史文化の観光に力が入っているとは思えない。

課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
文化的な魅力が不足している(続き)	オリジナルな魅力が不足している 観光資源が少ない(続き)	草津の特産物・イベントの開発(続き)	環境をテーマにしたイベントの誘致	○		○	○					ソーラーカー、エコカーなどのレースをブランド化する
			観光資源の開発促進									祭りをよさこいソーラン祭りのおもしろく参加意欲が湧くようにする シネマハウスの利活用。部屋の貸し出し、その他が考えられる 酒蔵、太田道灌をもっと活かす。 草津宿へは、歴史をキーワードとして関連付け、他地域より誘致する(たとえば京都から) 宿場の景観を統一できれば美しい 本陣の前のホールは楽しみ、文化の色が出てほしい。
				○		○	○					

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
文化的な魅力が不足している(続き)	観光資源が少ない(続き)	修学旅行生が琵琶湖博物館などに来たとしても、宿泊施設がない
		観光客にとって草津は狭間の時間(メインは京都など)
		草津宿本陣の近隣に観光客が立ち寄るようなところ(観光名所、土産物屋など)がない
		烏丸半島、草津宿本陣など観光地が点在している。どうしても車での移動観光になる
		観光客の動線が悪い。もう少し歩いてみたいと思えない。
		良い所が点々とあるのに本陣くらいまでで止まってしまう。
		本陣周辺は地区計画ができていなかった街。特にでこぼこの軒先。
		草津宿街道交流館の利用者が日曜日なのに少ない。むしろ皆無。

課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
文化的な魅力が不足している(続き)	オリジナルな魅力が不足している 観光資源が少ない(続き)	草津の特産物・イベントの開発(続き)	観光資源の開発促進(続き)									

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
文化的な魅力が不足している(続き)	観光資源が少ない(続き)	本陣周辺に歩くと一息つける場所がほしい。ベンチなど。
		本陣周辺は店舗の跡地が小さな駐車場となっている。月極めが多く観光客は使えない。
		本陣周辺には公共スペースがない。
		本陣の標識が「東海道」ではわかりにくい。
		旧東海道の目印がわかりにくい。
健康・福祉、教育文化、スポーツ施設が不足している	大規模スポーツ施設が不足している	大規模なスポーツ施設(1万席以上)がない(Jリーグを目指す草津のチームがあるが、大会は他市での開催が多い。草津市に施設が誘致できれば、経済効果は大きい)
		ゴルフ場がない
	高齢者の活躍の場が少ない	どこの施設でも年配の人の姿を見かけない。出かけられる場所が必要

課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
文化的な魅力が不足している(続き)	オリジナルな魅力が不足している 観光資源が少ない(続き)	草津の特産物・イベントの開発(続き)	観光資源の開発促進(続き)									
健康・福祉、教育文化、スポーツ施設が不足している	大規模スポーツ施設が不足している	スポーツ施設の充実	スポーツ施設の整備推進				○	○				水資源開発公団から市が土地を購入し烏丸半島にサッカー場をつくる
	高齢者・障害者の場が少ない	高齢者の社会参加の促進	高齢者の働く場の開発	○	○	○	○					老人クラブが高齢者の仕事の場をつくり(駄菓子屋など)、勤めていたときのノウハウや情報などを活用する

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
健康・福祉、教育文化、スポーツ施設が不足している(続き)	高齢者の活躍の場が少ない(続き)	高齢者のパワーを発揮する場所がない
		退職した人(特に男性)が活動し始めづらい
		今の高齢者は受身な感じ。プログラムを用意してもらえるところに出かけることが多い
医療体制の充実が必要だ	ホームドクターの休日診療制度を充実してほしい(小児科に集中している)	休日診療救急センターは専門の医師が少ない

課題の再整理		施策の提案											
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容	
健康・福祉、教育文化、スポーツ施設が不足している(続き)	高齢者・障害者の場が少ない(続き)	高齢者の社会参加の促進(続き)	駅前や旧草津川跡地における市民農園の整備		○	○	○					駅前マンション周辺や旧草津川跡地にレンタルの市民農園を設置する	
			幅広い世代による子どもの育成支援ネットワークの形成促進	○	○	○					子どもの放課後活動など、育成支援に関わる		
		高齢者・障害者の生活支援の促進	公共交通機関を活用した外出支援				○	○					市がコミュニティバスを走らせる。または民間バスの乗車補助券を高齢者に発行する
									○				商店街がバスの乗車補助券を高齢者に発行する
						○	○				タクシー会社と草津市が乗り合いタクシーを実施する		
			生活道路の体系的な整備の促進			○						草津市が歩道と車道の段差をなくして歩きやすくする	
医療体制の充実が必要だ	医療体制の充実が必要 公共の病院がない	医療体制の充実	地域医療体制の整備								○	各病院が医師会の協力により休日・24時間診療を増やす	
												烏丸半島の施設を病院や老人施設を含む総合コミュニティゾーンにできないか	

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
健康・福祉、教育文化、スポーツ施設が不足している(続き)	公共の病院がない	公立の医療機関がない(他市にはあるのに、市民にとってどうか)⇔(逆に、民間で成り立つのならばない方がよいのでは?) 公共の病院がない	健康・福祉、教育文化、スポーツ施設が不足している(続き)	医療体制の充実が必要 公共の病院がない(続き)	医療体制の充実(続き)	地域医療体制の整備(続き)									

○第3部会

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案												
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容		
駅前が開発が急にすすんできている	中心部にマンションが多い	駅前にマンションがはりつき過ぎ	駅前が開発が急にすすんできている	中心部にマンションが多い開発が中途半端	中心市街地の活性化に向けた明確な土地利用の指針づくり	土地利用のルール確立	○		○	○					☆	土地利用の方向性を明確化させる(土地利用のルールをはっきりさせていく、ルールづくりの確立など)	
		地区の特長を活かした土地利用計画の策定				○		○	○					☆	まちやエリアごとに特徴があるので、それを活かした計画をたてる		
		産業の活力を活かすための、土地利用の規制緩和の推進				○		○	○						☆	産業立地のための用途を柔軟に対応するようにする(工場にもいろいろあり、周辺に悪影響を与えないクリーンな工場なら、活性化に寄与する)	
		大規模商業施設の再生施策の推進						○	○							☆	大型店の再生を行う
		中心市街地活性化に向けた道路整備の推進						○	○							☆	中心市街地の道路の整備を行う
		中心部は商業地なのにマンションが多すぎる															
		住宅供給過剰(学生マンション・企業マンション、バブルの様相を呈している)(2)															
		駅前がマンションだけというのは、将来問題になる。							○	○							
		マンション乱立地域に緑が少ない。緑が少ないマンションは、将来的に価値が下がる可能性がある。							○	○							

※「☆」は住民、行政、民間によるまちづくりNPOを表す。

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案												
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容		
駅前開発が急にすすんでいる(続き)	開発が中途半端	開発には、先をみた土地利用のコントロールが必要	駅前開発が急にすすんでいる(続き)	中心部にマンションが多い開発が中途半端(続き)	中心市街地の活性化に向けた明確な土地利用の指針づくり(続き)	中心市街地活性化に向けた駐車場の整備	○		○	○				☆	駐車場の整備を行う		
		(開発が)何事も中途半端			中心市街地の活性化に向けた組織づくり	まちづくり推進のための住民、企業、行政が参加する組織形成(特徴あるエリアに応じた組織形成)	○		○	○				★	草津まちづくり委員会、または、さらに強力な「まちづくり会社」を組織する(住民・民間主体)		
		旧草津川が都市を分断している			まちづくり推進のための、住民と事業者間での合意形成の推進	○		○	○					☆	事業者と居住者の合意形成をすすめる		
		東西が旧草津川、南北がJRで分断されている			まちづくり組織形成の誘導施策の推進												行政が、組織づくりの誘導(資金補助や条例制定などを含めて)を行う
		南と北の状況が異なることに注目することも必要だが、最終的にはそれらをつないでいくことを考えることになるだろう										○					
急激な人口の増加による旧野路町の分断(2)																	

※「☆」は住民、行政、民間によるまちづくりNPO、「★」は住民、行政、民間によるまちづくりNPOを表す。

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
交通環境が整備不足である	公共交通整備の不足	車等がないと生活が不便だ
		車以外での交通手段がない
市街地以外では車なしでは生活できない		
交通(公共の)が不便だ		
南草津駅に新快速が止まらない		
路線バスの運賃が高い		
バスが少ない(立命館大学よりも先へ行くとバスがとても少ない)		
商店街を循環するような無料バスがない		
		バスが高い、少ない(観光スポットをめぐる場合に、たとえば草津宿から琵琶湖博物館へバスで行こうとしたら、アクセスが悪く本数も少なく料金が高い)
	道路整備の不足	渋滞が多い

課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
交通環境が整備不足である	公共交通整備の不足	歩いて暮らせるまちづくりの推進	市民参加による公共交通機関の充実									循環バスの運行
			市民参加による公共交通機関の充実	○	○							
	道路整備の不足	キャパシティに見合った交通体系と基盤整備	歩行者に優しい道路整備の推進			○						行政が、わかりやすい町にするために、サインを設置する(かわいい地図など)

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案														
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容				
交通環境が整備不足である(続き)	道路整備の不足(続き)	主要幹線・道路が集中している	交通環境が整備不足である(続き)	道路整備の不足(続き)	キャパシティに見合った交通体系と基盤整備(続き)	歩行者に優しい道路整備の推進(続き)			○						行政が、歩道や自転車道の整備を行う				
		道路が混んでいる(国道1号)				道路整備の推進			○						旧草津川を利用した東西道路の整備				
		中心市街地への道路アクセスが悪い。また、駐車場が少ない。				新交通システム整備				○									行政が、新交通システムの整備を行う(コンパクトシティを将来像として)
		道路の渋滞・年々悪化している(特に南北の道路が詰まる)																	歩行者の目線にたったまちづくりとしては、市街地のリニューアル
		道路インフラが追いついていない(抜本的解決には車そのものを減らす必要がある)																	
		道路が狭い(4)																	
		道路が複雑																	
		道路が混む																	
		国道1号のアクセスが混む。																	
		草津川により交通の便が悪くなっている																	
		三つ池周辺の道路は混雑している																	
		生活道路の整備が十分でない																	

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
交通環境が整備不足である(続き)	道路整備の不足(続き)	歩道が狭い(そのため自転車と歩行者が一緒)(2)
		歩道、車道の段差が危ない
		歩道の真ん中の電柱は再検討する必要がある(トンネルの出口など)
		交差点の信号間隔が短いので、渋滞する。人も渡りにくい。
		サインが分かりにくい。
		自転車置き場がバラバラで使いづらい
		通過交通しかない
		住宅街の通り抜けが多い
		草津駅前(道がごちゃごちゃしている・かつては開かずの踏み切り)
		駐車場がない
		駐車場が狭い
		交通マナーが悪い
		道路にゴミをよく捨てられる
	駅周辺等路上駐車がが多い	

課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
交通環境が整備不足である(続き)	道路整備の不足(続き)	キャパシティに見合った交通体系と基盤整備(続き)										
	交通マナーが悪い	交通マナーの向上施策の推進	交通マナーについての意識啓発の推進	○		○	○					

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
交通環境が整備不足である(続き)	交通マナーが悪い(続き)	烏丸の民活予定地付近の路上駐車が多い(2)
		駅前ロータリー駐車の車が多い
		学生の交通マナーが悪い(学生だけでひとつのまちの規模を持っているのだから、いい人も悪い人もいて当然といえば当然である)
生活に必要な施設が不足している	ゴミ処理場が不十分	ゴミ処理場が不十分
	集会所施設が未整備である	南草津団地集会所の入り口にスロープがないため高齢者が利用しにくい
産業の振興を図る必要がある	第一次産業の振興が必要だ	草津のよい環境を生かしてきていない
		農業自身が利益を出す構造が必要だ
		米は農家の規模がまちまちなので、どこが取組むのが難しい

課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
生活に必要な施設が不足している		生活利便施設の整備	生活利便施設の整備の推進				○					
産業の振興を図る必要がある	第一次産業の振興が必要だ	地産地消の推進	地産地消ショップの設置、運営					○			JA草津	地元産の農産物を、草津の人が買いやすい、便利なところで販売する
		草津のブランドづくり	草津ブランド創出プロジェクトの推進					○				草津産の野菜は、今は「京野菜」になってしまっている一方、「滋賀県産」という表意には効果が認められるので、ブランド化が必要である
			農家の取り組み体制の推進					○				農家の組織化を行う

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
産業の振興を図る必要がある(続き)	第一次産業の振興が必要だ(続き)	

課題の再整理		施策の提案											
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容	
産業の振興を図る必要がある(続き)	第一次産業の振興が必要だ(続き)	草津のブランドづくり(続き)	農家とサービス業との連携強化									ホテルのレストランで滋賀県産が好評のように、消費者に一番近いレストランの協力によりブランド化を進める	
												ホテルのレストランで生産者の顔が見えるようにする	
		草津のブランドづくり(続き)	農家とサービス業との連携強化(続き)										行政が、農家とレストランのマッチングなどコーディネートを行う
				ブランド化のための情報戦略									
		情報発信と理解の促進	体験学習プログラムの整備	○		○	○						
産業振興のためにさまざまな方法をたたくことが大切だ 計画的な土地利用による産業育成が必要だ	草津の特色に基づいた誘致戦略	企業誘致戦略										企業に草津をアピールするポイントを明確にする(交通、産学連携のPR、研究部門をターゲットに) すべての産業において他都市の成功事例を参考に!	

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
産業の振興を図る必要がある(続き)	第一次産業の振興が必要だ(続き)	
		草津は製造業用の新たな土地は少ない
		現在の企業は弱電が多い。不況だと同じように業績が下がる危険がある。業種が偏っていることは弱み

課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
産業の振興を図る必要がある(続き)	産業振興のためにさまざまな方法をたたくことが大切だ 計画的な土地利用による産業育成が必要だ(続き)	草津の特色に基づいた誘致戦略(続き)	企業誘致戦略(続き)									がんばった人は儲けていい。成功事例、成功体験をひとつでも多くつくっていくことが大事。 中国や韓国の企業を誘致するのもひとつ。 草津市では、ベンチャー支援も結構やっている
		行政による産官学の連携推進	産官学連携推進における情報戦略の策定			○						行政が、企業へのPR、情報の受発信を行う
			産官学連携推進体制の構築			○						

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
産業の振興を図る必要がある(続き)	第一次産業の振興が必要だ(続き)	
職場と住まいが両立するまちづくりが必要だ		
衰退した商店街を活性化したい	商店街が衰退している	商店街が細分化され過ぎ
		旧市内に活力がない
		商店街が寂しい(3)

課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
産業の振興を図る必要がある(続き)	産業振興のためにさまざまな方法をたえずことが大切だ 計画的な土地利用による産業育成が必要だ(続き)	適正な産業施設の配置	産業施設の整備計画の策定	○		○	○	○				工場を立地させる時のマップ、計画性のある土地利用をどうするか、考える必要がある。 土地が少なくてもよい。生産性の高い、高付加価値の産業育成が必要。
職場と住まいが両立するまちづくりが必要だ		調和のとれた仕事・生活空間の整備促進	生活に身近な職場環境の創出			○	○					職場がコミュニティスポットの真ん中にあるとよい
衰退した商店街を活性化したい	商店街が衰退している 商店街活性化の戦略をたてる必要がある 郊外大型店との競争が難しい	空き店舗活用の推進	チャレンジショップ施策の推進				○					商店街としてやってみたいプランを募集し、1ヶ月など短い期間、応募者が実際に店をやってみる(チャレンジショップ)
		商店街への動線の整備促進(ハード対策)	賑わい創出のための建築規制条例			○	○					マンションが商店街に貼り付きすぎなのを解消する
			アメニティ創出のための緑化推進条例、緑化推進助成金			○	○					

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
衰退した商店街を活性化したい(続き)	商店街が衰退している(続き)	商店街の後継者がいない
		商店街はシャッター通り。ポテンシャルはある。行政の力だけでは何ともならない。地域通貨も肝心の商店が盛り上がらなかった
		シャッターが閉まっていて寂しい(2)
		シャッター通りになりつつある。
		日曜でも店をあけてほしい
		閉まっている店が多く寂しい
	平日より日曜が休みの店が多い	

課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
衰退した商店街を活性化したい(続き)	商店街が衰退している 商店街活性化の戦略をたてる必要がある 郊外大型店との競争が難しい(続き)	商店街への動線の整備促進(ハード対策)(続き)	賑わい創出のための交通計画の策定			○	○					歩いて暮らせるまちを目指す
			賑わい創出のための土地利用計画の策定				○	○				商店街にオフィスエリアを作る(商店街の一筋裏にオフィスを設ける)
			商店街へのアクセス整備				○					旧草津川の平地化によりアクセスを整備する
			商店街へのアクセス整備(続き)									商業地域については、人の流れを意識的につくる。例えば、駅からの流れ、車の流れ
		商店街への動線の整備促進(ソフト対策)	賑わい創出イベントの推進				○					賑わいづくりのイベントを行う
						○				屋台で一流シェフの料理を提供する		
						○				中心部に多いお寺などの資源をめぐるツアーを実施し、人を呼び込む		
		商店街のコンセプトづくり	商店街のコンセプトづくり				○					地元に着した賑わいと、風情のあるまちづくりを目指す

課題に関する内容		
大項目	小項目	付箋内容
衰退した商店街を活性化したい(続き)	商店街が衰退している(続き)	人や自転車の通過道路になっている。
		6丁目から4丁目のお店の客が4軒で4名であった。
		興味をそそられるようなお店が連続していない
		商店街が日曜日なのに人が歩いていない。
		商店の努力も足りない。

課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
衰退した商店街を活性化したい(続き)	商店街が衰退している 商店街活性化の戦略をたてる必要がある 郊外大型店との競争が難しい(続き)	商店街のコンセプトづくり(続き)	商店街のコンセプトづくり(続き)									具体的なコンセプトを策定する(例「安心」「価値と興味の創出」「調和する」、「衣・食・知」を重視した方針) 商店が閉まっていて楽しめない。楽しめる工夫が必要だ 地域コミュニティ向けの商店街。歩いて暮らせるまちのあり方も考えたい。イオンができて、車で買いに行きにくい、行けない人達もいる。 観光客向け、地元向け、オフィス街向けなどターゲットをどこにしていくな どこの客をとってくるのか、ターゲットを明確にする必要がある。食うか食われるかの世界で、勝つための戦略が必要だ

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
衰退した商店街を活性化したい(続き)	商店街が衰退している(続き)	住宅や病院が店舗の間に入り乱れているために、歩いて楽しめない。	衰退した商店街を活性化したい(続き)	商店街が衰退している 商店街活性化の戦略をたてる必要がある 郊外大型店との競争が難しい(続き)	商店街のコンセプトづくり(続き)	商店街のコンセプトづくり(続き)									衣、食、興味の連続をつくる必要がある
		屋間しまっている居酒屋が増えているため屋間がさみしい。													まず、地元の人が来てくれるように。そこから外向けにも広がるのではないか。
		まちなみがそろっている所とそうでない所がありバランスが悪い。													地産地消をもっと積極的に進める。(目標、ターゲットを明確に)
		間口の狭い店が多い。													駅前大型店舗との共同作戦
	郊外大型店との競争が難しい	平和堂は、1号店ゆえ、残っているらしい。現在は駐車場が義務付けられているので、建て替えは難しいが。 大型商業施設による商店街の衰退(2)													
	商店街活性化の戦略をたてる必要がある	今の商店街は、普段の買い物の機能を維持するのにも、何か手をうたないといけない状況だ													

○第4部会

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案												
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容		
市民活動が重要だ	地域コミュニティが弱まってきた	転入者が多いことが、人口増加、コミュニティづくりの課題となっている	市民活動が重要だ	地域コミュニティが弱まってきた	新しい市民層と共生できる草津市オリジナルの協働創出	ボランティアに関する学習機会の拡充		○	○							行政が、定年退職者へのボランティア参画支援を行う。	
		旧住民には古い価値観にとらわれている人もいる				若者向けコミュニティビジネスの支援			○	○						行政が、若者の地域起業支援(SOHOなど)を行う。	
		地域は青年団・婦人会があった頃と違う(課題解決の目的が必要)。				ボランティア活動・まちづくりグループ活動支援の推進											地域住民は、地域別グループからテーマ別(課題別)グループへの転換を促進する。
		新旧住民が交流しない、交流が少ない、ギクシャクしている(4)															
		新旧住民の世代間の問題への対処が必要である。															
		新住民どうしの交流が少ない(2)															
		人の入れ替わりが激しい(協働の難しさ)															
		市民がまとりにくい															
住宅団地では同世代の方々が集うので、世代を超えた広がりを持つことが難しい																	

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
市民活動が重要だ(続き)	地域コミュニティが弱まってきた(続き)	団地でも、共生できる環境づくりが必要だ(例)多世代混住の推進	市民活動が重要だ(続き)	地域コミュニティが弱まってきた(続き)	新しい市民層と共生できる草津市オリジナルの協働創出(続き)										
		団地では人が減りつつある													
		住宅団地単位では課題が共有できるが多様なニーズには応えられない。他地域との連携が必要													
		学生や一人暮らしの人で自治会に入らない人がいる													
		運動会など行事に出てきてくれない													
		向こう三軒両隣(近隣コミュニティ)がなかなか進まない													
		住民の入れ代わりが多く、つながりを求めている人も多い。													

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
市民活動が重要だ(続き)	地域コミュニティが弱まってきた(続き)	サポートコミュニティ等、必要なものであれば自然に組織や団体が出来上がっていくのではないか。そもそも町村コミュニティってそういうものだと思う。すたれていっている or 活発でないということは、「必要とされていない」ということではないのか？必要とされていないのであれば、より必要とされるものに形を変える、または廃止する等していく方がシンプルでよい コミュニティが崩壊しているのは必要とされていないのか、地域内教育もなくなるのではないか	市民活動が重要だ(続き)	地域コミュニティが弱まってきた(続き)	新しい市民層と共生できる草津市オリジナルの協働創出(続き)										
	市民活動への関心や参加をよびかける必要がある	他市に比べ福祉やボランティア活動が遅れている		市民活動への関心や参加をよびかける必要がある	市民に親しまれる中間支援施設づくり	ボランティアに関する学習機会の拡充	○	○	○						

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
市民活動が重要だ(続き)	市民活動への関心や参加をよびかける必要がある(続き)	無関心層の対応が必要だ	市民活動が重要だ(続き)	市民活動への関心や参加をよびかける必要がある(続き)	市民に親しまれる中間支援施設づくり(続き)	「市民活動ワンストップサービス窓口(仮)」の設置			○						行政が、ワンストップサービスの窓口を作る。「市民活動したいそのとき即対応」(やりたい人がやりたいことをやれるよう、情報提供をサポート)
		勤労世代の参加方法を検討する必要がある				官民協働によるボランティアに関する情報提供の推進		○	○					行政が市民と連携し、地域でどんな活動をしているか、情報の仲介、ヒントや情報の提供を行う。	
		「私やらんでも誰かがやってくれるんやろ」と言いつつ、その結果に文句を言う人が多い。				官民協働による市民活動への支援体制の充実		○	○					行政が市民と連携し、ボランティアグループへのサポートを行う。	
		でも、その人たちを教育していくのは大変。人は自分自身が本当に必要だと思わないと動かない。イヤイヤだとまた文句が出る				官民協働によるボランティアセンター機能の設置と充実		○	○					行政が市民と連携し、市民団体も紹介・マッチングするボランティアセンター機能を作る(ボランティアセンターを、ボランティア活動や地域活動をする人、市民のニーズに合わせた運営ができる場にしていく)。	

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案														
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容				
市民活動が重要だ(続き)	市民活動への関心や参加をよびかける必要がある(続き)	ボランティア活動の大切さへの気づきのための取り組みが必要だ	市民活動が重要だ(続き)	市民活動への関心や参加をよびかける必要がある(続き)	市民に親しまれる中間支援施設づくり(続き)	市民活動スペースの提供促進		○	○							行政が市民と連携し、市民が普段から集まり、会議等ができる場所づくりを行う(行政・市民グループ協働で運営する施設にしていく)。			
		社会参加に対する意識づけ(子どもの頃からの)														行政が、まちづくりリーダーの育成と発掘を行う(市民活動をやりたい人・潜在的な人はいっぱいいるので「焚き付け役」が必要である)。			
		地域教育は誰がするのか(学校ではない)																	行政が、中間支援施設を行政サービスも問い合わせ・つながりができる場にしていく(福祉・子育ての悩み等)。
		本グループ・草津市民の中でも協働のイメージは違う。 草津市には多様な価値観の人がいるので、多様な協働の形がありうる。 草津市の協働は「パッチワーク」のような多様なイメージである。												○					
						「行政サービスコーディネート窓口(仮)」機能の設置													

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案											
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容	
市民活動が重要だ(続き)	市民活動への関心や参加をよびかける必要がある(続き)	草津で多様な人が集まるためには、ゆるやかな事業の形態が必要である。 市民活動は、市民活動の「需要」に見合う「供給」のバランスがかみ合うことで、全体に広がる。	市民活動が重要だ(続き)	市民活動への関心や参加をよびかける必要がある(続き)	市民に親しまれる中間支援施設づくり(続き)											
市民活動の場づくりが重要だ	公共施設が使いづらい	市の施設の設備が使いにくい	市民活動の場づくりが重要だ	公共施設が使いづらい 市民センターの魅力づくりが課題 市民センター、公民館の役割を見直す必要がある	公共施設運営への民間活力の導入			○	○							公共施設は、地域ごとの特色ある取り組みを競争させてはどうか。
	市民センターの魅力づくりが課題	市民センターの魅力づくりが課題 市民センターが地域に溶け込んでいない														市民が施設の設計にかかわってはどうか まちなかの公民館で共同畑をつくってはどうか

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案																	
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容							
市民活動の場づくりが重要だ(続き)	市民センターの魅力づくりが課題(続き)	市民センターのスタッフが排他的である	市民活動の場づくりが重要だ(続き)	公共施設が使いづらい市民センターの魅力づくりが課題 市民センター、公民館の役割を見直す必要がある(続き)	公共施設運営への民間活力の導入(続き)	学生の参画による公共事業・公共施設運営の導入と推進										公共施設は、立命館大学学生が運営する「チャレンジ公民館」を実施してはどうか(学生に1部屋与えて、施設運営に参画してもらうなど)。						
		市民センターは市民団体間の調整をしてほしい															公共施設は、休館日の部屋活用をすべきである(遊ばせておくのはもったいない)。 行政は、学校施設の貸し出しも行う(ここで得た貸館費用を施設管理に回すことで行財政改革へつなげる)。					
		市民センター化により利便性は向上、使い勝手は要進化、運営(会館)スタイルは要改善																指定管理者制度・アウトソーシングの推進				公共施設は、施設運営に市民団体・民間企業の参画を入れていく。 職員体制はいつのこと米原方式(管理委託)もよいのではないか 全学区一斉システムは難しいのでモデル地域はどうか？
		市民のための施設であるならばもっと開かれた運営を考える必要がある イメージが暗い																				
		地域の拠点活動などで参加しない人をいかに参加してもらえるか																				

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
市民活動の場づくりが重要だ(続き)	市民センターの魅力づくりが課題(続き)	館長によって運営が違う 市民センターが生涯学習プログラムの提供や情報発信の機能をなかなか担いきれていないので、もっと特色がほしい	市民活動の場づくりが重要だ(続き)	公共施設が使いづらい市民センターの魅力づくりが課題 市民センター、公民館の役割を見直す必要がある(続き)	公共施設運営への民間活力の導入(続き)										公共施設は、指定管理者制度の導入も含め、市民やNPOが運営する形が理想である(米原の例)。 施設の有効利用(開放)やノウハウの提供(気付きetc)(それぞれの立場から発信)つなげるしかけづくり
	市民センター(公民館)の役割を見直す必要がある	市民センター(公民館)の日曜開設は必要か?(1日1件ということもある) 市民センター(公民館)の数は13も必要か?中学校区ごと程度でもよいのではないか。 市民が求める行政サービスと提供される市民サービスは合致しているのか?													
	まちづくりセンター、ボランティアセンターの運営に課題がある	まちづくりセンターには利用の仕方が異なる各団体の調整の難しさがある		まちづくりセンター、ボランティアセンターの機能強化 の運営に課題がある		官民協働による機能の設置と充実		○	○						

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案											
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容	
市民活動の場づくりが重要だ(続き)	まちづくりセンター、ボランティアセンターの運営に課題がある(続き)	まちづくりセンターが特定の団体しか利用されていないのでは(利用しづらい) 市ボランティアセンターは形だけのようない気がする。一般市民が利用しにくい。(特定の人だけが利用しており、市民には遠い存在)	市民活動の場づくりが重要だ(続き)	まちづくりセンター、ボランティアセンターの運営に課題がある(続き)	まちづくりセンター、ボランティアセンターの機能強化(続き)											
多様な人々が市民活動に参加するべきだ	地域での取り組みが必要だ	小地域での協働は見えるが、ここまで大きくなると見えにくい	多様な人々が市民活動に参加するべきだ	地域での取り組みが必要 学生や大学が参画するべき 企業も参画できる協働のしくみづくりが必要 学生にとって魅力のある地域づくりが必要	市民・地域、ボランティア、大学・民間の継続的なネットワークづくり(続き)	市民・地域と、大学・企業との連携促進	○	○		○		○				企業も大学も、地域からのオーダーがあれば資金面以外は協力できるので、市民(地域)がこの間(地域・市民と、大学・企業)を積極的につないでいく。

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案																		
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容								
多様な人々が市民活動に参画するべきだ(続き)	地域での取り組みが必要だ(続き)	地域ごとの協働のあり方が必要だ	多様な人々が市民活動に参画するべきだ(続き)	地域での取り組みが必要 学生や大学が参画すべき 企業も参画できる協働のしくみづくりが必要 学生にとって魅力のある地域づくりが必要(続き)	市民・地域、ボランティア、大学・民間の継続的なネットワークづくり(続き)		○	○	○			○			学生も後輩へ継続したい・関わりたいと思っている(例:ブリッジ・宿場まつり等)ので、大学も市民も行政も、立命館大学学生がもっと地域に関わってもらうように働きかけていく。								
		草津の中にも自然環境豊かな地域、田畑が広がる地域、市内の市街地など多様な地域がある。それらが互いに連携することが、魅力づくりにもつながる。														○					○		学生団体には、夏祭りなどのイベントに参加してほしい
	学生や大学が参画するべきだ														○	○						○	
	企業も参画できる協働のしくみづくりが必要だ	松下も立命も、地域清掃にはなるべく地域と一緒にしている。行政や地域が企業・大学と計画・日付等を早い段階から合わせていけると協力しやすい。					○	○							学生団体の小学校中学校の授業等支援ボランティア活動を継続してほしい								

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案											
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容	
多様な人々が市民活動に参加すべきだ(続き)	企業も参画できる協働のしくみづくりが必要だ(続き)	大学生と違い、企業人はその地域に居つてくが、世代が続かない(ニュータウン化)という課題が共通している。	多様な人々が市民活動に参加すべきだ(続き)	地域での取り組みが必要 学生や大学が参画すべき 企業も参画できる協働のしくみづくりが必要 学生にとって魅力のある地域づくりが必要(続き)	市民・地域、ボランティア、大学・民間の継続的なネットワークづくり(続き)	大学・企業のCSRへのマッチング支援の推進	○	○	○	○						企業は、企業で働く人たち、子どもたちも含めたその家族が地域に関わるように働きかける。
															まちづくりに協力したいと思っている企業は、CSRという視点から、地域と企業のつながりづくりを考えていく。	
	学生にとって魅力のある地域づくりが必要だ	学生が地域に残らない(Iターンはない)				多様な主体のネットワークづくりのための体制拡充						○				
		立命館大学学生のうち、8000人は草津に住んでいるが、卒業したら離れていくという現状がある。							○							行政は、公民館・ボランティアセンターの専門性を拡充し、これらのマッチングサポートできる体制づくりを行う(現行の公民館職員5年契約では難しいため)。

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案											
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容	
多様な人々が市民活動に参加すべきだ(続き)	学生にとって魅力のある地域づくりが必要だ(続き)	地域内雇用が少ない(空洞化)	多様な人々が市民活動に参加すべきだ(続き)	地域での取り組みが必要 学生や大学が参画すべき 企業も参画できる協働のしくみづくりが必要 学生にとって魅力のある地域づくりが必要(続き)	市民・地域、ボランティア、大学・民間の継続的なネットワークづくり(続き)											産官学民の連携スタイル。現状は官が中心で、その他とは放射的關係が強い。官中心一辺倒から、産学民それぞれ中核となる様な運営スタイルをめざしていくべき(それぞれが個々のつながりになっていて、ネットワーク化されていない)
行政・議会の位置づけを明確にするべきだ	行政サービスを再検討するべきだ	求められる市民サービスの多様化に行政はどこまで対応できるのか？ 公と私の区別をどこに置くのか？(市民サービスの範囲) 市全体のトータルビジョンの視点で議論できる政策立案機能(あるべき姿)が必要だ 多文化共生施策がない	行政・議会の位置づけを明確にするべきだ	行政サービスを再検討するべきだ 行政の顔が見えにくい	市民に身近で的確な行政サービスの提供	市民参加による行政サービスの再検討										
	行政の顔が見えにくい	市役所の部署の名称が変わりすぎ(覚えた頃に変わる)					○	○	○	○	○					

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
行政・議会の位置づけを明確にするべきだ(続き)	行政の顔が見えにくい(続き)	行政の顔が見えにくい	行政・議会の位置づけを明確にするべきだ(続き)	行政サービスを再検討するべきだ 行政の顔が見えにくい(続き)	市民に身近で的確な行政サービスの提供(続き)										
		草津の中心でイベントが多い(琵琶湖側や、山側での開催が少ない)													
		市の中心市街地の改善・改革の手の打ち方が小さい。 行政の縦割りの弊害がある、融通が利かない													
市民と行政の協働を進める必要がある	市民と行政との対話の場を作る必要がある	住民の活動を行政が支援してほしい	市民と行政の協働を進める必要がある	市民と行政との対話の場を作る必要がある	地域のアイデアや意見を反映できる行政のしくみづくり	「協働提案制度(仮)」の整備		○	○						行政自身を、地域からのアイデアや意見を受け止めることのできる仕組みに改革していく。
		行政は、他地域の市民活動支援の情報を集めて中間支援施設のあり方を検討する必要がある。				「事業仕分け(仮)」の推進			○					行政は、各部署の事業整理を図り、縦割り行政の解消を行う。	
		行政は、地域でどんな活動をしているか、情報の仲介、ヒントや情報の提供。協働を支える役割を担えるように。				協働指針具体化のための行動計画策定	○	○	○	○	○	○	全ての主体が、協力して協働指針の具体化を図る(具体化計画の策定等)。		

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
市民と行政の協働を進める必要がある(続き)	市民と行政との対話の場を作る必要がある(続き)	行政は、講座実施の際はPRをしっかりと行うべきである。	市民と行政の協働を進める必要がある(続き)	市民と行政との対話の場を作る必要がある(続き)	地域のアイデアや意見を反映できる行政のしくみづくり(続き)	多様な主体のネットワークづくりのための体制拡充	○	○	○	○		○			全ての主体(地域・大学・企業等)が、行政が組織する形ではない地域独自の組織体となって各種のつなぎ役になる。
		行政は、ボランティアセンター事業実施に際しては、市民と協力して一般の人にも目につく工夫をすべきである(裾野の広がり意識して)			市民活動の広がりを促進する仕掛け(仕掛け役)の推進	「協働営業(仮)」担当セクションの設置		○	○					行政と市民の協働のために、まずは顔の見える関係づくりから必要であるため、行政も「協働営業」のセクションを設ける。	
		異動のある行政職員とのパートナーシップの難しさ			ボランティア活動・まちづくりグループ活動関連イベントの推進		○	○						行政が市民の協力を得ながら、ボランティア関連イベントを実施する(実施方法自体を裾野が広がるよう工夫を)。	
		ひざをつきあわせるような行政との対話が少ない(各トーク(市長etc)はシナリオができています)			地域活動のあり方についての調査研究の促進		○	○						行政・市民は、市民活動の裾野を広げるために、若い人が集まっている「天気村」の取り組みに学ぶ。	
		行政や市民活動の担い手にもカリスマ(プロジェクト的)が必要である。													

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案											
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容	
市民と行政の協働を進める必要がある(続き)	市民と行政との対話の場を作る必要がある(続き)	協働のカリスマが抜けたときのことを考え、行政・市民活動団体は協働ノウハウの平準化を図るべきである(限界はあるが)。	市民と行政の協働を進める必要がある(続き)	市民と行政との対話の場を作る必要がある(続き)	市民活動の広がりを促進する仕掛け(仕掛け役)の推進(続き)											
		市民のニーズをいかに効率的に市へ届けるか(本当に求めているもの)														
	広報体制の拡充が必要だ	広報くさつを使った行政告知(市民は意外に読んでいる)		広報体制の拡充が必要だ	市民に親しまれる広報体制の拡充	市民活動の情報発信支援の推進										<p>広報くさつはよく読まれているので、行政は、広報の「お知らせ」のページを見開き1ページ分にする(企業も大学も市民もこのページを活用している)。</p> <p>IT 社会とはいえ、幅広い年代で利用できる「広報くさつ」の必要性は高い</p>
		市政情報の入手方法 広報くさつの活用率がとくに高いが十分に生かされているとはいえない						○	○	○		○				

課題に関する内容			課題の再整理		施策の提案										
大項目	小項目	付箋内容	大項目	小項目	施策の方向	具体事業	住民	ボランティア	行政	民間	専門家	大学	その他	備考	付箋内容
市民と行政の協働を進める必要がある(続き)	広報体制の拡充が必要だ(続き)	ポータルサイト「932情報ネット」が機能していない。	市民と行政の協働を進める必要がある(続き)	広報体制の拡充が必要だ(続き)	市民に親しまれる広報体制の拡充(続き)	市民活動の情報発信支援の推進(続き)									立命館大学と草津市は提携し、つながっているということが、他の主体に知られていない。もっと活用についてのアピールをするべき。
		市民活動を供給したい団体は多いが、市民団体側もニーズのある人を「助けに行くよ」という表明が必要である。													

